

松連寺本堂天井と船戸



指定区分	県指定重要文化財(建造物)
読みかた	しょうれんじほんどうてんじょうとふなど
所在地	高梁市上谷町
指定年月日	昭和34年3月27日
解説	<p>文禄元年(1592)豊臣秀吉の朝鮮出兵に際し、総督として釜山に出陣した宇喜多秀家は、渡海の安全と戦勝祈願のため、十一面観音を勧請し、住職宥海を従軍させた。役後、観音信仰の証として、新たに三十三観音を造立して観音堂を建立するにあたり、秀家が用いた御座船の用材が使われた。その後備中松山の城下町整備に伴い、明暦3年(1657)松連寺が現在地に移転する際、観音堂は本堂と接する形となった。天井は64の格間に仕切られ、漆箔の上に葉は群青、花は銀箔で、典型的な太閤桐が描かれ、周囲に群青、銀、朱などで細かい紋様が描かれている。桃山期の技術、美術がうかがえる貴重な文化財である。船戸はどのように用いられていたか不明である。</p>
アクセス方法	JR備中高梁駅から徒歩10分
公開状況	一般公開されていません
設備	
備考	